

# 再起動 北陸新幹線

## 第6回 福井県内4駅の延伸に向けた戦略と開業日レポート

～敦賀・越前たけふ・福井・芦原温泉編～



調査研究部 担当部長 藤沢 和弘

待望の北陸新幹線の敦賀延伸がさる3月16日(土)に実現した。2015年に当時の長野新幹線が金沢に延伸し、北陸新幹線が誕生した際には、北陸3県において黒部宇奈月温泉・富山・高岡・金沢の4駅が新幹線駅として開業した。今回は、石川県の金沢駅と福井県の敦賀駅を結ぶ約125kmの区間が延伸され、小松・加賀温泉・芦原温泉・福井・越前たけふ・敦賀の6駅が新たに新幹線駅となった。本稿では、開業日レポートの第1弾として、福井県で開業した4駅の街づくりや開業当日の様子についてレポートする。

### 1 かがやき・はくたか・つるぎ・あさまの違いと延伸効果を最大限にする新ダイヤ

#### (1) 列車と停車駅の原則的な組み合わせ

延伸開業前に発表されていた基本的な列車と停車駅の組み合わせは以下の通りである(括弧内は一部列車が停車)。

「かがやき」…東京、(上野)、大宮、長野、富山、金沢、福井、敦賀を停車駅とする最速タイプで全車指定席となっている。基本的に車内販売がある。

「はくたか」…東京、上野、大宮、(高崎)、(安中榛名)、(軽井沢)、(佐久平)、(上田)、長野、(飯山)、上越妙高、糸魚川、黒部宇奈月温泉、富山、新高岡、金沢、小松、加賀温泉、芦原温泉、福井、越前たけふ、敦賀が停車駅であり、北陸においてはかがやきに次ぐ速達性を持つ。

「つるぎ」…富山～敦賀間で運転され、富山、新高岡、金沢、(小松)、(加賀温泉)、(芦原温泉)、福井、(越前たけふ)、敦賀に停車。従来の北陸域内の特急に代わるもので、金沢～富山が22分、金

沢～敦賀が43分となる。富山と福井が1時間ほどとなり、かがやきより約15分多く時間はかかるが、利便性と料金のバランスに優れる。自由席・指定席・グリーン車のほか一部列車にはグランクラスはあるものの、軽食サービスはなく、車内サービスもない。富山と福井が約1時間で結ばれる利便性は高く、観光やビジネス、教育旅行などの用途で利用が見込まれ、域内交流の活発化が期待される。また、敦賀から関西へ至るサンダーバード、中京に至るしらさぎにつなぐ機能も持つ。

なお、これらのほかに「あさま」があるが、これは東京、上野、大宮、(熊谷)、(本庄早稲田)、高崎、(安中榛名)、軽井沢、佐久平、上田、長野が停車駅であり、北陸とはなじみが薄く、長野新幹線の名残が感じられるものである。

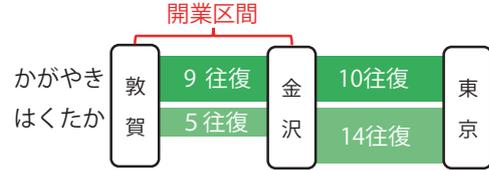
#### (2) 利便性に配慮したダイヤの設定

かがやき・はくたか・つるぎ・あさまの基本運用は前述のとおりであるが、利便性に配慮した結果、3月16日のダイヤ改正時に、原則パターンに加えていくつかの変則運用がなされることとなった。

- ・列車の内訳  
「かがやき」東京～敦賀：9往復  
「はくたか」東京～敦賀：5往復



- ・本数イメージ



■所要時間

◆東京～各駅間の最速所要時間の比較（北陸新幹線利用時）

かがやき	敦賀	越前たけふ	福井	芦原温泉	加賀温泉	小松
改正前	3:58	—	3:27	3:19	3:07	2:58
改正後	3:08	3:06	2:51	2:51	2:43	2:40
比較	▲0:50	—	▲0:36	▲0:28	▲0:24	▲0:18
(参考改正前) 東海道新幹線 利用時*	2:50	—	3:24	3:36	3:46	3:55

\*改正前の最速所要時間（東京～米原間は「ひかり」、米原～各駅間は「しらさぎ」を利用した場合で算出）

列車名	本数(往復)	敦賀	越前たけふ	福井	芦原温泉	加賀温泉	小松	金沢	...	東京
かがやき	5	○		○						○
	2	○	○	○			○			○
	2	○		○	○			○		○
はくたか	5	○	○	○	○	○	○	○		○
停車回数(往復)	14	14	7	14	7	7	7			

◆「小松・越前たけふ」に停車する「かがやき」

敦賀発 東京行	敦賀発	越前たけふ発	小松発	長野着	東京着
かがやき502号	6:11	6:23	6:49	8:08	9:32
かがやき518号	20:11	20:23	20:50	22:09	23:32
東京発 敦賀行	東京発	長野発	小松着	越前たけふ着	敦賀着
かがやき501号	6:16	7:38	8:56	9:22	9:34
かがやき517号	19:56	21:17	22:36	23:02	23:14

◆「加賀温泉・芦原温泉」に停車する「かがやき」

敦賀発 東京行	敦賀発	芦原温泉発	加賀温泉発	長野着	東京着
かがやき506号	8:15	8:41	8:49	10:12	11:36
かがやき510号	15:04	15:31	15:39	17:03	18:28
東京発 敦賀行	東京発	長野発	加賀温泉着	芦原温泉着	敦賀着
かがやき507号	9:20	10:46	12:09	12:17	12:43
かがやき509号	10:22	11:43	13:05	13:13	13:39

出典：西日本旅客鉄道株式会社金沢支社ニュースリリース 2023.12.15より

① 延伸地域と東京との速達性と利便性の確保

「東京～敦賀」直通は「かがやき」「はくたか」の1日14本。「かがやき」は金沢以西では福井と敦賀のみに停車する通常タイプのほか、小松、加賀温泉、芦原温泉、越前たけふに停車する列車を設定し、首都圏や信越方面への乗車機会の確保と速達性を高めた。

「はくたか」についても、新規開業区間は各駅停車で当面運転し、首都圏への直通機会を確保している。これにより小松や芦原温泉、越前たけふなどへも列車によっては、東京からあるいは東京

へ乗り換えなしで行ける便が設定された。延伸区域の利用者にとっては、従来の米原回りとの時間短縮効果は薄いものの、乗り換えの解消からくる利便性が高く、航空便との競合や、東京方面から延伸地域の加賀温泉や芦原温泉への浴客・観光需要の取り込みに配慮している。

② 北陸から東京への「はくたか」所要時間の短縮と七尾線の利便性向上

「はくたか」の一部で長野駅における「かがやき」通過待ちを廃し、金沢・富山～東京間を従来比で10分近く早めている。金沢～七尾・和倉温泉間の列車は、チェックアウト後や日中観光後の利用しやすい時間帯にも特急復路便が設定された。

③ 北陸と近畿・中京圏とのスムーズな連結、大阪～和倉温泉は19分短縮

JR西日本としては、今回の延伸で特に「関西と北陸の分断」防止のため、各接続にも相当の配慮を行っている。乗り換えが発生する和倉温泉へのアクセスについては、新幹線の速達効果を最大限に発揮させ、大阪から和倉温泉が最速3時間19分（7:40発サンダーバード5号→つぎ6号→能登かがり火3号）と19分短縮できるダイヤを組んだ。

また、各ターミナル駅での接続待ち時間を短くしているほか、敦賀～米原駅間に臨時快速を設定し早朝深夜の利便性も確保している。

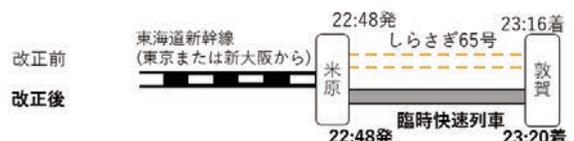
総じて新幹線の延伸効果を最大限発揮できるよう北陸地域全体のダイヤを一新した設定となり、JRの苦心と意気込みが感じられるものとなった。

■停車駅と運転時刻

○敦賀発 ⇒ 米原行き（途中の駅には停車しません）



○米原発 ⇒ 敦賀行き（途中の駅には停車しません）



## 2 北陸各駅の開業日の様子と 地域戦略

構想から50年以上を経てようやく新幹線がやってきた駅や街は、今回の延伸開業をどのように準備してきたのか。それぞれの駅と街ごとに報告する。

### (1) 敦賀駅 ～ダイナミズムを取り戻せるか～

#### ① 敦賀

敦賀は畿内各地から、北陸への入り口、古来交通の要衝、天然の良港を抱えた北前船の寄港地、近代には欧亜国際連絡列車（ボートトレイン）の日本側の入口、対口（対ソ）貿易として木材などの輸入拠点として発展した北陸でも最も国際色豊かな都市である。滋賀や京都と近接しているため、関西圏と文化や経済的な結びつきが強い。ただ、戦後原子力発電関連施設を誘致したことは、市財政などへの効果はプラスであったが、自発的内発的発展の芽を摘んでしまった部分も見られ、敦賀が元来持っていたダイナミズムが失われた印象もあった。一方で原子力立地としての貢献度の高さは、2011年の北陸新幹線延伸・着工議論において、「原発負担は地域へ押し付けながら新幹線が来ないのはおかしい」という地元主張がなされ、また同年の東日本大震災があぶりだした原発立地リスクの顕在化もあり、敦賀延伸決定の決め手になったといってもよい。

#### ② 敦賀駅

すでに報道されているとおり、敦賀駅は日本最大の新幹線駅といってよいほどの大きさとなった。これは、新幹線やJR在来線の終着駅として操車スペースが必要なことや、旧JR敦賀駅の南側に広大な土地が確保できたことも理由である。JR小浜線、JR湖西線、ハピラインふくいなどが乗り入れており、北陸随一のターミナルになった。「敦賀要塞」ともいわれる新幹線駅舎は、北側線路が国道8号のバイパス道路を跨ぐ必要にも迫られ、12階建てビルに相当する地上37m、幅は41

mにも達する。

関西・中京方面の特急乗り場として割り当てられたJR敦賀駅の34番というホーム番号は、京都駅嵯峨野線（山陰本線）のホームと並んで日本最大である。なお、京都の34番は降車専用であり、乗り場としての最大番号は敦賀駅になる。ホーム番号は利用されているホーム数とは異なり、0番台、10番台、20番台などが運行主体などによって割り振られる。敦賀駅には20番台が工事や回送で使用されるため、異例の30番台使用となった。

改札が19通路と新幹線駅では最多となっているほか、海を望める新幹線ホーム、北前船の帆をイメージしたコンコースの天井（ゆるくカーブを描いている）、3階の新幹線ホームは船をモチーフにした待合室があり、床には船の甲板風の木彫タイルを敷き詰めてある。駅の南側は広い駐車場があり駅の内外装にも敦賀らしさを押し出している。

#### ③ 開業日の様子

敦賀駅のホームでは出発式が開かれ、斉藤国土交通大臣、杉本知事などが出席。東京駅に向かう最初の列車「かがやき502号」の出発に合わせた祝賀行事、これに続き敦賀駅上島豊敏駅長と女優の中条あやみさんによる「出発進行」の合図による発車などが催された。

当日朝は6時前から人が集まりだし、2日間にわたる北陸新幹線敦賀開業記念イベント「つるが街波祭」が開催された。16日は午前10時から敦賀駅前の道路を歩行者天国とし、特設ステージと観光物産のブースが並んだ。特設ステージでは、敦賀観光特任大使として俳優の大和田伸也さんとアーティストで滋賀ふるさと観光大使の西川貴教さんのトークショーや鏡割りなどのイベントが開催された。

また観光物産市は、100mにわたって2列の仮設ブースが並んだ。地元敦賀はもちろん長野など新幹線沿線や北陸各地、さらに近隣の滋賀などから出店があり、特産品の紹介や物販が行われた。

敦賀は1920年代にポーランド孤児、1940年代には杉原千畝氏が発行した「命のビザ」を持つユ



「つるが街波祭」鏡割りの様子

ダヤ難民が入港した縁が現在でも続いており、観光ブースの中にはポーランド関係者のものも見られた。

土曜日にもかかわらず駅前商店街のかなりの店舗が開かれており、<sup>けいひ</sup>気比神宮までをつなぐスタンプラリーなども企画され、駅前周辺だけではなく町全体への誘導が工夫されていた。イベント広場近辺は大勢の人で埋め尽くされ、開業に伴うお祭りムードは最高潮に達した。

巨大な新幹線駅の登場をきっかけに、地域のダイナミズムを取り戻したいという、開業にかける思いが伝わってくるイベントで大盛況となった。開業に合わせて敦賀駅周辺の街区も一新された。駅



ポーランド政府観光局のブース



大勢の人に埋め尽くされた熱気あふれるイベント広場

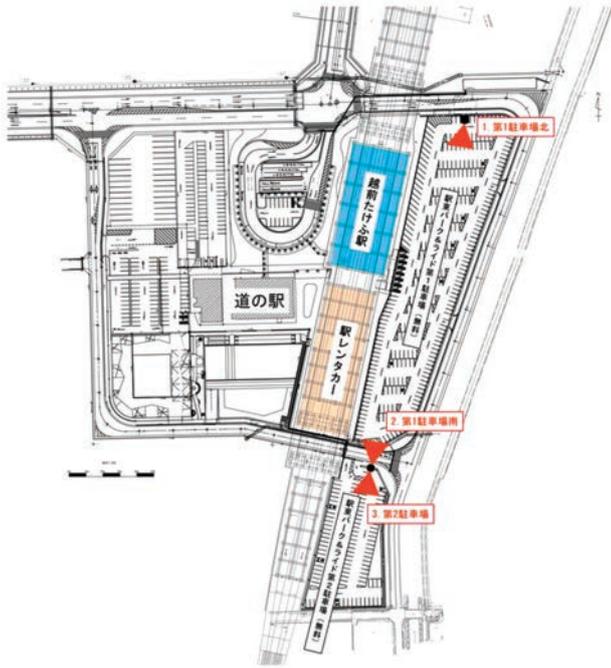
前は複合施設「otta (オッタ)」がオープン。ホテル、飲食店、特産品の物販店、子育て支援施設、駐車場などで構成されており、市は22年9月にはotta内に公設書店「ちえなみき」をオープンさせた。約750㎡のスペースを使い、3万数千冊の本が置かれている。観光客に対しては市内観光の玄関口や待ち合わせの場などとして、市民にとっては「知育・啓発施設」との位置づけとなっている。単なる結節点ではなく、いかに駅から出て観光してもらうか、宿泊させるか、そして新しい地域の価値を創造し提供できるかが次の課題であろう。

## (2) 越前たけふ駅 ～ものづくりの街の戦略～

### ① 越前たけふ駅

今回の延伸地域で唯一、現駅乗り入れではなく新立地の駅となったのが越前たけふ駅である。他の鉄道路線や地元路線バスさえ接続しておらず、新幹線駅は旧JR武生駅から3 kmほど東に位置している。両駅間は日野川を越え村国山を迂回するため自動車で4.5km、約10分の移動を伴う。ただ、新駅は北陸高速道路武生ICと近接しており、駅西には道の駅、東側には駅東パーク&ライド駐車場として、新幹線利用者や駅発着の高速バスなどの優先駐車場となっている。新駅となり市街地から離れた分、自動車でのアクセスが良く、鉄道との相乗効果が見込まれる立地となった。鉄道駅というより空港に近い性格である。

新駅への路線バスの乗り入れはないが、開業日から越前たけふ駅→ルートインホテル→プリンスホテルタケフ→武生駅→大河ドラマ館（武生中央公園）を往復するシャトルバスを運行している。かつて国府がおかれた武生は、紫式部が過ごしたことで知られ、式部ゆかりの地として街おこしを行ってきた。現在、大河ドラマ『光る君へ』でとりあげられたことで、市では武生中央公園内の催事場「しきぶきぶんミュージアム」内に2月から特設展を設け、実際にドラマで使用された衣装などを12月まで展示している。また、越前市ではコロナ禍の2020年夏からタクシー事業者を支援するため市内観光地や飲食店、宿泊施設など



出典：越前市HPより

決められたスポットを一律500円で移動できる定額タクシー「迎車でGO!」を運行している。在来線と新幹線駅間の移動はもちろん、新幹線の越前たけふ駅から「ナイフビレッジ」までは運賃が2650円ほどかかるが、このチケットの利用により500円で行くことができる。アフターコロナとなっても制度を続け、新幹線開業需要につなぐ。

## ② ものづくりの街

観光振興に配慮を見せながらも地域が長期的に狙うのは、ものづくりの高度化による発展である。越前市は2020年3月に「南越駅周辺まちづくり計画」を策定、翌年4月にはこれに基づいて「越前市新幹線駅周辺まちづくりガイドライン」とし、新駅周辺の開発方向などについて、民間事業者、土地所有者、行政が共同してガイドラインを策定した。駅周辺の虫食い開発の防止、営農への配慮、自然を感じるまちなみ景観の創出、新幹線駅周辺にふさわしい施設立地の誘導などが決められている。そのため、新駅周辺にありがちな無秩序な乱開発や大手商業施設の誘致もなく、周辺の土地もほとんど手つかずとなっている。この政策は、地域の中での住居地移動を制限する効果があり、これまでJR特急が停車していた武生や鯖江市街地の延命効果にもつながっている。

そんな中で唯一新駅前に大規模な開発が進むのが、株式会社福井村田製作所が設置する「セラミックコンデンサ研究開発施設」であり、26年4月の完成を目指し整備中である。もともと武生・鯖江周辺は、古来大陸から伝わった紙すきや漆器、打刃物をはじめ、北前船が育てた高度な指物（家具）といった伝統産業法認定の産地産品以外に、眼鏡枠や越前焼、機械製造といったものづくりが盛んな地域である。そのDNAを新幹線の力を借りながら高度に発展させていきたいという地域戦略がしっかりと練られている。

日本中に既存駅に乗り入れできなかった新駅は多いが、バブル期に東京の地価上昇のあおりを受けて急速に発展した新横浜と、東京の通勤圏という立地を生かし周辺需要も取り込んで発展した長野の佐久平以外は、ほとんどが既設中心駅を超える賑わいを見せていない。新駅周辺は虫食い状に乱開発され、大手商業施設や大手物販チェーン店とファストフード、新興住宅、田畑が混在する特徴のない街並みとなることが多い。越前市ではこれらの前例をしっかりと研究しながら、新駅立地の不利を克服するオリジナルの戦略をもって街づくりに取り組んでいる。

## ③ 開業日の様子

新駅前はマイカーで埋まり、早い時間帯から多くの人でにぎわっていた。好天にも恵まれ駅前の芝生広場には多くのテントやキッチンカーが並んだほか、改札前には「ようこそ！北陸新幹線『越前たけふ駅』へ」という横断幕による出迎えと、地元の和紙で作成した記念切符としおりが配布された。1日駅長として俳優の小泉孝太郎さんが来場し、トークショーには会場の外まで人が押し寄せた。越前市は、開業日の16日と翌日の2日間を「北陸新幹線開業イベント」とし、上記以外にも高所作業車からの新幹線駅舎の見学、「ミニ北陸新幹線」の乗車体験、新幹線グッズの販売、円座太鼓実演、チアダンスや地元高校生による書道パフォーマンスが行われた。午前中には丹南地域（越前市、鯖江市、越前町（丹生郡）、南越前町（南条郡）、池田町（今立郡））の首長が集まっての挨拶



越前たけふ駅前の様子

拶など、派手さはないものの、地域の人の手作り感が強く伝わる開業となった。

なお、隣接の道の駅「越前たけふ」では打刃物や和紙などのクラフト展が開催されたほか、一日駅長を務めた俳優の小泉孝太郎さんは、昨年鯖江の眼鏡づくりの草創期を描いた映画「おしよりん」に出演した縁で招かれたものであり、この点からも、新幹線延伸をお祭り騒ぎや観光だけではなく、「ものづくり高度化」のきっかけにしたい地域戦略が感じられた。

### (3) 福井駅 ～SWOTから始めた開業対策～

#### ① 福井駅と福井市

福井駅は今般延伸した中で唯一の県庁所在地であり、JR現駅への乗り入れという点では2015年北陸新幹線開業時の富山駅や金沢駅と似た環境である。街中の観光資源や規模感、終着駅ではない点などから富山駅と比較するのがよいかもしれない。

福井市は、2017年3月に新幹線開業効果を最大限に引き出し、さまざまな分野に波及させるため、官民が方向性を共有し、より一体となって効率的かつ効果的に開業準備を進められるよう、「北陸新幹線開業アクションプラン」を策定、2020年3月に改訂した。市民アンケートによって「交流」「商工業」「観光」の観点から重要度や満足度について整理し、金沢までの延伸地域のリサーチを加え、開業を迎える課題として「人手不足対策」「2次交通の整備」「広域・周遊観光の推進」「県都玄関口の着実な整備と賑わい創出」「オフシーズン（冬）・他地域との差別化を図った観

光PR」の5つを上げた。また、福井市は策定に際してSWOT分析を行っている。

経営戦略企画の初期フェーズにおいて、SWOTの作成は至極当然であるが、行政が大きなプロジェクトに際してきちんと活用した事例は皆無であろう。開業対策というと、まず観光だけが語られ、街区整理が続き、これにつながる利権が絡まり、予算の獲得合戦、広告代理店へのイベント丸投げや法被を着た首長による東京でのPRなど、お祭り騒ぎで終わることが多かった昭和・平成の時代とは隔世の感がある。アライバイ仕事に嫌いな福井人らしい地に足をつけた開業となった。このSWOT分析を受けて、観光、まちづくり、農商工業、情報発信の 카테고리に分けて政策・戦術を練り上げていった。金沢延伸後に顕著になった北陸の工場誘致状況を見て、「農商工の連携強化」「企業立地の推進」なども重点分野として位置づけられている。

さらにこのアクションプランには、新幹線延伸を機会として老朽化した街のリニューアルが強く押し出されている。福井市は1945年の戦災、1948年の福井地震によって破壊しつくされた街である。しかし街の主要産業である繊維業におい

機会×強み (積極化・成長戦略)	脅威×強み (差別化・克服戦略)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○県外からの企業誘致の促進</li> <li>○基幹産業の振興</li> <li>○イノベーション促進と先端技術への応用</li> <li>○創業・起業の促進</li> <li>○大学との連携推進</li> <li>○首都圏からの観光誘客(金沢からの誘客)</li> <li>○観光資源の磨き上げ</li> <li>○広域観光の充実(周辺市町との連携)</li> <li>○インバウンド強化</li> <li>○福井の食のPR強化</li> <li>○駅周辺の賑わい創出(イベントの充実)</li> <li>○コンベンションの誘致</li> <li>○県都玄関口への都市機能の充実</li> <li>○歴史や緑を感じられる空間形成(足羽山・足羽川の活用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本海側へ災害時のリスク分散を行う東京圏の企業誘致</li> <li>○関西圏・中京圏に近い優位性を活かした産業振興</li> <li>○福井を支えてきた繊維関連産業の再生</li> <li>○福井ならではの食(優位性の確保)</li> <li>○商店街や商業施設への支援</li> <li>○事業承継の円滑化</li> <li>○人材育成</li> <li>○製品の高付加価値化(ブランド化)</li> <li>○お土産品等の商品開発促進</li> <li>○農水産物や加工品の販路拡大</li> </ul>
機会×弱み (弱点強化・改善戦略)	脅威×弱み (専守防衛)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○二次交通網の充実</li> <li>○まちなかの回遊性の向上</li> <li>○レンタカー等の自由な交通手段の確保</li> <li>○大型観光バスの駐停車場の確保</li> <li>○まちなかの魅力の創出(滞在時間の延伸)</li> <li>○中小企業の競争力強化(事業拡大支援)</li> <li>○地域の中核企業の支援</li> <li>○上場企業づくり</li> <li>○観光地・食・産品等の福井ブランド化</li> <li>○6次産業化の推進</li> <li>○シティプロモーションをはじめとする国内外への情報発信の強化</li> <li>○市民のおもてなしの向上と観光ガイドの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産業基盤の強化</li> <li>○観光地・食・産品等のプロモーションの強化</li> </ul>

出典：北陸新幹線福井開業アクションプラン：福井市（R3.5改訂）より

# 福井駅前再開発情報

2023年10月現在 21

## 建設中

- ⑦北陸新幹線
- ⑧中央1丁目10番地区再開発事業  
(ハニー跡地再開発)
- ⑪-1三角地帯再開発A街区
- ⑪-2三角地帯再開発B街区
- ⑬織協ビル建替工事
- ⑰大名町地下道工事
- ⑳旧福井西武新館建替え
- ㉑レーベン福井大手

## 開発構想中

- ⑫-1.2.3駅前南通り地区再開発事業  
(南通り再開発)
- ㉒JT福井支店

## 竣工済

- ①手寄地区再開発事業  
(AOSSA)
  - ②福井駅西口中央地区再開発事業  
(ハピリン)
  - ③中央公園整備事業
  - ④福井駅西口広場整備事業
  - ⑤福井駅東口広場整備事業
  - ⑥えちぜん鉄道高架化事業
  - ⑨ドメイン福井新築工事
  - ⑩福井銀行本店建替工事
  - ⑭福井テラス新築工事  
(北國銀行福井支店)
  - ⑮旧北国銀行福井支店
  - ⑯大手町複合施設新築工事
  - ⑰北電南立体駐車場建設工事
  - ⑱片町複合ビル
- ※AOSSA竣工以降の事業を記載



出典：福井市情報サイトを制作するてるふあい氏より提供「福井駅前再開発事業一覧」より [https://teruhuai.com/fukui\\_build](https://teruhuai.com/fukui_build)

て、戦後合繊糸が登場すると人絹織物から合繊織物へのシフトが積極的に実施され、1970年代には世界最大規模の「長繊維産地」に発展した。これにより福井は「不死鳥（フェニックス）の街」と言われた。この震災直後と好景気時代に立てられたビルやインフラが福井の街を作っているが、すでに50年以上が経過し、福井市内の主要な建造物が老朽化しているため、新幹線延伸を機に大胆な街全体のリニューアルが企画された。

まず福井駅周辺の大規模なリニューアルとして、駅前周辺大部分の再開発が行われた。駅の東口西口、さらに南西方面の駅前商店街の整備、西側の通称「三角地帯」と言われるホテルや商業街区の取り壊しと再建築や大名町織協ビルの改築など、現在進行中のももの多いが、これらにより福井駅周辺は一新されており、昔日の面影はなくなった。

単に街並みを美しいものに一新するだけでなく、「福井駅西口恐竜広場」の設置と恒久化、史

跡「北の庄」や名勝「養浩館庭園」への誘導など街なか観光の充実や、市民にとって悲願であった路線バスターミナルの駅前広場への移転、地域鉄道の相互乗り入れや協力体制の構築などが進められた。現在、街全体が再開発中というのは日本中でも福井市と天神（福岡市）ぐらいであろう。また、市街地だけではなく足羽山公園施設の整備や、インフラ以上にソフトウェアの整備なども盛り込まれている。福井市の開業対策は、観光や商工業振興、市民生活など多岐にわたっており、開業対策に名を借りた街全体のリニューアルといってもよい。

## ② 開業日の様子

5時25分頃からJR福井駅のコンコースにて、JR西日本主催の『北陸新幹線金沢～敦賀間開業式』が行われ、その後ホームに移動してテープカットなどが行われた。「福井市食のPR大使」を委嘱されている橘ケンチさん（EXILE、EXILE THE SECONDなど）の出発合図を受けてかがやき502

号を送り出している。なお、新幹線駅として最も巨大な敦賀駅と対比して、逆に最もシンプルな作りとなった



福井駅 新幹線改札前の様子

のが福井駅である。福井駅はすべての新幹線が停車することを想定しており、追い越し線も乗り換えも想定されておらず、「1面2線島式ホーム（）」の、新幹線駅では唯一の例である。そのためホームの幅も狭い。約75mの幅の中に、当時の北陸本線と北陸新幹線、さらにえちぜん鉄道のホームを押し込んだためであるほか、地元が接続や駅前開発を重視して、郊外の新駅ではなく現駅乗り入れにこだわったことが理由ともいわれる。

9時頃からは、ハピテラスにて催された福井市主催の開業イベント『北陸新幹線ウェルカムフェスタ』が始まり、橘ケンチさんが登場。開業記念のコラボレーション日本酒として、橘さん自身もプロデュースに関わった『黒龍 あどそ 橘』（黒龍酒造）および『常山橘』（常山酒造）を使って、鏡開きやトーク、振る舞い酒などで大盛況となった。

同日開業となった福井駅高架下の商業施設「くるふ福井駅」には、午前9時ごろには千人以上が列をなした。開業式では、杉本知事や金沢ターミナル開発の山越社長らがテープカットを行って買い物客を迎え入れている。また福井駅上空ではブルーインパルス<sup>1</sup>の演目飛行が行われ、ハートや桜など6通りの形をスモークで描き、駅周辺だけではなく足羽河原などでも多くの人々が集まった。

福井市観光交流センター屋上広場は新幹線ホームと同じ高さであり、お出迎え関連イベントが進行した。福井市内の着物店「もたはん」が着物ユーザーを集めて、東京始発のかがやき到着に合わせて恐竜と駅舎をバックに記念撮影のお客様イベントを実施するなど人は途切れず、お昼の時点で入場規制がかけられるほどであった。県民にとって記憶に残る1日となったであろう。



福井市観光交流センター屋上広場で開催されたイベントの様子

### ③ 「100年に一度」と「恐竜一本足打法」

新幹線の福井延伸に伴い、すでに各マスコミで喧伝されたとおり、県や市の関係者から多く出された言葉が、「100年に一度（のチャンス）」である。空港のない福井県にとって東京と鉄路で直接結ばれることは県民の悲願でもあった。一方で、開業年が工事の遅れを理由に1年延期され、さらにコロナ禍によって開業マインドが一気に冷えてしまい、これを危惧した行政側が盛んに使いだした言葉が「100年に一度」である。22年に県都にぎわい創生協議会が作成した「県都グランドデザイン（案）」の冒頭に、「福井県は、2024年春の北陸新幹線福井・敦賀開業や将来の大阪延伸を控え、100年に一度の大きなチャンスを迎えている。」と書かれたのが公式には最初であるが、協議会に招かれた外部有識者が、「観光だけではない。むしろ産業や生活、古くなったインフラのリニューアルなど100年に一度のチャンスだ」と繰り返し強調したことが冒頭に記されたものであるともいわれる。

20年5月に、福井商工会議所から福井駅周辺地区のまちづくりに関する提言がなされ、これを受け、7月に福井商工会議所と福井県、福井市が協力・連携し、「県都にぎわい創生協議会」を設立、経済界も含め行政も一体となり、北陸新幹線開業に向けた観光コンテンツの魅力向上対策や県都の将来像について議論を重ね作成したものが「県都グランドデザイン」である。基本方針として「県都リノベーション～分散した都市機能をまちなかに再配置し、エリア価値を最大化する」を掲げており、上述の福井市の開業対策コンセプトと齟齬なく後押しする内容となっている。新幹線延伸を機に福井駅前周辺の街なかを統一的なコンセプト

の下でリノベーション（修復・刷新）しながら、3つの領域「たのしみ」「くらし」「しごと」において2040年前に達成するべき9つの目標が設定されている。「100年に一度」というフレーズは、それだけの責任を認識させるとともに、むしろ観光以外の住民目線やものづくりなど産業面でしっかりと長期ビジョンを策定していくべきという思いが共有されたことで、「単なる開業対策」ではなく「今後100年のデザインを策定する仕事」に変わった。福井では、商工会議所・福井市・福井県が同じ方向を向いて新幹線開業を迎えられたことに大きな意味があったと思う。

もう一つ、福井県の観光振興で特に目立つのが「恐竜」である。福井駅前の恐竜広場や駅舎の壁をはじめ、ホテルや街角など県内の至る所に恐竜関係のコンテンツが見られる。行政の観光振興というと、不公平が出ないように地域全域からまんべんなく地場のコンテンツを並べたプロモーションを行うが、あえて福井県は恐竜関連を前面に出したプロモーションを行っている。行政関係者からは「恐竜一本足打法」という言葉も出ているが、これも県都にぎわい創生協議会で議論になった事項である。もともとは、かなり以前の福井の観光戦略会議に招かれた株式会社ブランド総合研究所の田中代表（福井出身）が、「あれもあるこれもあるではだめ、福井はもう恐竜一本でやっていくべき」とアドバイスしたのがきっかけであると記憶している。「恐竜は福井ではなく勝山のコンテンツ」「ほかの観光地の宣伝も」など反対意見も多かったが、そもそも観光とは「世界にそこにしかないもの」で「年間100万人を呼べるもの」しか地域の顔にはならない時代である。「おらが町の名物」ではなく、まずはキラーコンテンツをしっかりと宣伝して一点突破を図り、食や景色などその他のものに観光事業者自身が頑張っただけでいけばよい。福井県の観光担当が会議に出てくるとほとんど恐竜と蕎麦の話しかしない時期もあったが、このくらいの思い切りがないと、なかなか観光客は駅で降りてくれない。「幸福度日本一」などはそこに住む住民の価値観であり、ツーリスト

に何も訴求できない。

#### (4) 芦原温泉駅 ～観光に集中できる地域性～

##### ① 芦原とあわら

「芦原」は古くからの地名であるが、2004年に坂井郡芦原町と金津町が合併して、「あわら市」が発足した。この合併の際に、いくつか絞込まれた新市名の中で登場している。「芦原が「あしはら」と誤読されることがあるので、ひらがな地名にして新しいイメージとひらがなの柔らかさを加えた」という。基本的には古くからあって域内で活動するものは漢字表記で、対外的に活動する場合はひらがな表記を使うことが多い。駅名は漢字表記の「芦原温泉」であるが、旧駅名を踏襲したという説、関西方面の浴客による認知度、人気アニメ「ちはやふる」では「芦原」と表記され一般化したなどの理由がある。さらに中国の国民的小説家である魯迅の代表作「藤野先生」の故郷が芦原であり、中国での認知度が非常に高く記念館などもあることから「芦原」表記となったのではないかともいわれる。

芦原は明治以降良質泉に恵まれた温泉の街として発展してきたが、福井県嶺北地方（福井県は、南条一敦賀間に跨る山間地を境に、嶺北地方と嶺南地方に分けられる）のあわら市周辺は、温泉以外に東尋坊、松島水族館、三国湊、芝政、金津創作の森、永平寺、恐竜博物館、丸岡城、平泉寺、越前大仏、大野城、大野朝市など多くの観光コンテンツを持つ「福井県北部観光圏」の中心に位置する。近年では三国湊の観光コンテンツ化も進んでおり、また高額な金沢の宿泊コストを避けるためにビジネスマンがあわら市に宿泊することも目立ってきた。そのため新幹線延伸を機に、駅前に「ホテルプライムイン福井あわら（8階建て全126室）」が22年秋に開業するなど、温泉だけではなく観光拠点としての性格が強くなっている。近年では、「ちはやふる」の作中舞台の一部にもなったことで、地域商工会や行政が一体となって、継続的にアニメツーリズムを開拓し成功させている。新旧の観光コンテンツに囲まれ、観光に全振

りできる点で、敦賀や福井などとは環境が異なる。

## ② 芦原温泉駅

在来線の東隣に駅舎が新築された。「あわらの大地に湧き出る贅の駅」というコンセプトのもと、あわら温泉の癒しと旅情が漂う駅を目指してデザインされた。県産の木材や和紙がふんだんに使われ、ビジネスではなく、温泉の癒しと旅情表現を重視している。東西に広い交通広場が新設され、西口には待合室やイベント空間、カフェ・ミュージアム・お土産販売・観光案内所などを兼ねた「アフレア」という付属施設が昨年オープンしている。敦賀や福井と同様に駅周辺の景色は一変した。駅の壁面には東尋坊を背景に温泉につかる恐竜が描かれ、足元の床には恐竜の足跡が続く。温泉のアピールに加え周遊観光拠点としてのメッセージ性が十分に表現されていた。



東尋坊を見ながら温泉につかる恐竜たち

## ③ 開業日の様子

駅周辺は早い時間から人波ができ、到着した乗客たちを「ふくい応援ポケモン」である「カイリユウ」のお面を被った地元関係者や女将たちが出迎えた。開業当日と翌日は、開業イベント「新幹線歓迎会」が開催され、プレゼン



芦原温泉駅で出迎える芦原温泉の女将たち



アフレアでの開業イベントの様子

ト配布、ダンスパフォーマンス、声優のトークショー、東京発一番列車到着中継、パレード、お囃子、クイズコーナーなどが披露された。

アフレアにおいても、JR西日本が主催した式典が行われ、森あわら市長、国土交通省、福井県、鉄道・運輸機構ら関係者が出席、市長の挨拶などが続いた。

駅ホーム上では、式典にさきがけ、岩下駅長と「ちはやふる」の声優・安済知佳さん（福井県出身）ら3名が合図し、東京行き8時41分発のかがやき506号を見送った。また、駅前通り商店街では多くのテントが張られ、地元グルメ歩行者天国が開催され、多くの市民でにぎわった。活性化拠点として新たに整備された駅前の「金津本陣にぎわい広場」と「a CUBE (エーキューブ)」においては、体験型のワークショップが開催されており、終日人出が途切れることはなかった。開業初日だけで駅周辺を訪れた人々は2万1000人（アフレアでのカウント）となり、これはあわら市総人口の7割以上にあたる。地域の新幹線にかける期待は非常に大きい。

本稿では、延伸された北陸新幹線の福井県の各駅と街づくりなどについてとりまとめた。福井県の各自治体とも、2015年の金沢延伸時およびそれ以降の富山県や金沢市の各新幹線駅をしっかりと分析しており、長期的な街の発展の方向性などを織り込んだ特色ある駅づくり・街づくりがみられる。その点では、単にお祭り騒ぎに終始して短期間の開業効果を狙う昭和・平成の延伸開業とは根本的に異なる新しい取り組みがみられた。なお、近畿日本ツーリストが発表した今年のゴールデンウィークの国内旅行先の伸び率順位で、福井は前年比338%と2位の東京（193%）に大差を付けてトップとなっており、観光面では幸先の良いスタートとなった。

次号では、石川県の延伸駅である加賀温泉および小松の街づくりや開業日の様子に加え、金沢駅など「第2の開業」を迎えた地域についても報告する。